

2016年12月

CSV経営の提案～経済価値と社会価値の両立～

情報学部 経営情報学科 志村ゼミ
B3P21002 相山 夏実

【卒業論文概要】

最近、「ブラック企業」という言葉をよくニュースで耳にする。ブラック企業とは、違法行為を常態化させた企業、狭義には従業員が劣悪な労働環境で働かされる企業を指す。例えばすき家や電通などである。これらの企業はニュースで報道されたことで、企業自体の評判が悪くなり損失を被っただろう。ブラック企業が存在するのは「経済価値」を求めるだけの経営をしているからだと考える。

そこで本論では、ブラック企業を無くすために CSV 経営を提案する。CSV 経営とは“Creating Shared Value (共通価値創造)”の略で、「経済価値」と「社会価値」の両方を同時に実現する経営である。つまり、企業にとって利益を生み出す事業活動そのものが、社会的な課題を解決することにつながる経営である。まず、CSV 経営を成功させる三つの方法とその事例を紹介する。そして、従来企業が行ってきた CSR 活動と CSV を比較し、その違いを明らかにする。すると、CSV 経営には「企業の評判の向上」また「企業間の価格競争がなくなる」などといったメリットがあることが分かった。そして、すき家でアルバイトをした経験から、すき家を例として CSV 経営を成功させる三つの方法になぞらえた経営案を提示する。

CSV 経営を行うことであらゆる社会問題が解決されるわけではない。しかし、企業が CSV を追求することで、利益追求に目がくらむことなく余裕があるバランスの良い健やかな経営となりブラック企業ではなくなっていくだろう。